

書名	<b>96歳セツの新聞ちぎり絵 まいにち日めくり</b>			著者名	木村 セツ／著		
出版社	里山社	ISBN	978-4-907497-22-4	本体価格	¥1,700	発売	2025/1/10
内容	95歳から96歳までに作った新作ちぎり絵作品を、感謝とユーモア溢れる言葉とともに31枚収録。90歳から新聞ちぎり絵を始めたセツさんの座右の銘である夫の遺言「いくつになっても勉強せなあかん」という言葉あり、お粥好きの夫に合わせ我慢していたパンを食べる喜びが溢れる作品「ちりめんじゃこトースト」あり…。卓上をずーっと明るく灯す万年日めくり作品集です。 1929年(昭和4年)1月7日奈良県桜井市生まれ。						

書名	<b>浄土教の展開</b>			著者名	石田 瑞麿／著		
出版社	法蔵館	ISBN	978-4-8318-2685-5	本体価格	¥1,500	発売	2025/1/10
内容	浄土教はなぜ日本で広まったのか――。インド・中国の浄土教を概観した上で、日本における浄土教の展開を、教理的観点から分析するとともに、社会一般の情勢とも関連づけて評価した恰好の概説書。日本浄土教研究において未開拓の分野であった念仏と本覚思想との関係についても論及した意欲作。						

書名	<b>奈良の食文化史</b>			著者名	富岡典子／著		
出版社	臨川書店	ISBN	978-4-653-04585-4	本体価格	¥2,700	発売	2025/1/15
内容	奈良に住む人々が何を食べてきたのか、そして何を食べているのか、その生活・文化と食との関わりとは――古代から現在に至るまでの食生活を通史の型式で丁寧にとどり、また、東大寺における仏教儀礼の食や奈良各地の祭りに関わる神饌など宗教行事に根差した食にも焦点をあて、奈良にまつわる食文化について概観する。						

書名	<b>修験道大系</b>			著者名	宮家 準／著		
出版社	春秋社	ISBN	978-4-393-29207-5	本体価格	¥3,000	発売	2025/1/20
内容	修験道の基本を一冊にまとめた概説書の決定版。修験道の日本宗教史上における位置づけをとらえた歴史編、修験道に見られる宇宙観・他界観・人間観などをまとめた思想編、供養法・峰入修行・吉凶と占いなどをまとめた儀礼編の3部構成。						

書名	<b>孝経 儒教の歴史二千年の旅</b>			著者名	橋本 秀美／著		
出版社	岩波書店	ISBN	978-4-00-432050-0	本体価格	¥960	発売	2025/1/20
内容	東アジアで『論語』とならび親しまれてきた『孝経』は、儒教の長い歩みを映し出す鏡のような存在だ。古代における経典の誕生と体系化、解釈学の興亡と皇帝によるテキスト編纂、失われた書物をめぐる日中の学問交流、そして「孝」の教えをめぐるせめぎ合い——小さな古典から、儒教の大いなる流れをスリリングに案内する。						

書名	<b>恭仁京と万葉歌</b>			著者名	村田 右富実／著		
出版社	関西大学出版部	ISBN	978-4-87354-789-3	本体価格	¥3,100	発売	2025/1/25
内容	本書は、恭仁京時代の万葉歌に正面から取り組んだ初めての学術書である。天平十七年(七四五)の平城遷都後、万葉歌は大伴家持を中心とした私家集の色彩が強まってゆくため、恭仁京時代は家持にそれほどまでに偏らない表現研究を構想できる最後の期間でもある。 「はじめに」では、今述べた点を含めて、本書の立場が明瞭になり、本書が目指す韻文史構想が記される。						

書名	<b>体感する仏像</b>			著者名	村松 哲文／著		
出版社	NHK出版	ISBN	978-4-14-407323-6	本体価格	¥3,000	発売	2025/1/27
内容	NHK趣味どきっ！で放送された番組テキストを元に編む“仏像ビジュアルブック”。番組テキストで紹介した仏像を厳選して掲載。実際に鑑賞するときと同じ環境・視線で撮影された写真は、公式の資料写真として撮影された仏像専門のカメラマンの作品とは異なり、仏像をはるかに身近に感じさせ、その存在感は見る者を圧倒する。テキスト未掲載のカットも新たに加え、わかりやすい解説とともに約100体を紹介。この本でしか見ることができない仏像の写真が満載の、愛好家もビギナーも納得の1冊。						

書名	<b>歩いて学ぶ日本古代史 2</b>			著者名	編集:新古代史の会		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-06897-0	本体価格	¥2,200	発売	2025/1/28
内容	律令に基づく天皇中心の国家体制を築いた奈良時代。新たな地方支配のしくみ、相次ぐ遷都、仏教文化の伝播といった時代の特徴を、都城や国府、寺院、城柵などの遺跡を訪ねて学び、歴史の現場で古代の息吹を感じる。						